

来てよかった。来てくれてよかった。



つねたか
濱井恒孝さん
中川公民館長。
中川在住

まさふみ
山田将史さん 24年
佐賀県出身。中川小
学校PTA会長

ひでとし
余吾英俊さん
消防団中川分団の
副分団長

まさみち
井上雅道さん 12年
東温市出身。竹細工
「タケカンムリ」の
つくり手

ちあき
井上千晶さん
西条市市民ライタ
ー「さいたーず」
のメンバー

ともお
黒川共勇さん 14年
岡山県出身。前中川
小学校PTA会長

けいた
櫻井啓太さん 5年
茨城県出身。カフェ
「くらしとごはんリ
クル」経営

あすか
櫻井明日香さん 5年
新居浜市出身。啓太さん
とカフェを経営

まきこ
近藤牧子さん
高知県出身、田野在
住。お子さんが中川
小学校へ通学

みちまさ
越智道雅さん
養蜂家。「みっ
ちゃんのはちみつ」
を生産

公民館に集まった中川地区に住む皆さん。口々に、自分と地域とのつながりや思いを語り合いました。
※名前の横の数字は中川地区在住歴（中川地区出身者はなし）。

若者世代の移住先として 好条件が評価

若者世代が
住みたい田舎 四国エリア
全国1位 全部門1位

（株）宝島社発行「田舎暮らしの本」（2月号）
2020年版で発表の住みたい田舎ベストランキン
グ。同社が230項目のアンケートを629の自
治体で実施。当市の移住促進の取り組みや、
自然環境、就労支援などが高く評価されまし
た。（詳細は広報紙2月号22ページに掲載）



丹原町中川地区座談会

よその人から 近所の人へ

移り住んできた人たちがいきいき
と暮らし、良い地域を作っていくた
めに、何が必要なのでしょう。移住
者が活躍する中川地区の皆さんにお
話を聞きました。

活躍する場があったら、
地域になじむきっかけに

——5年前に移住した当時、地域には
すぐになじめましたか。

啓太さん ここに来る前、東京ではコ
ミュニティーに入るのが嫌だった。仕
事の組合や会議とか、楽しくないし、
行きたくないでしょ。そういうんは、
めんどくさいなって思ってたんです。
明日香さん 移り住んだからには地域
のことに参加したいと、愛護班など
は入ってたけど、消防団は2年目から
ずっと「入らんかい」と言ってくれて

たのは近所のおじさんでした。「よそ
者やけん」ってほんとくんじゃなくて、
声掛けてくれて、入るきっかけをす
っと作ってくれて、ありがたかったです。
黒川さん 僕は岡山から来たけど、き
っかけは消防団。誘われて、地元のこと
を知りたいから参加してみた。そし
たらつながりがすごい広がったね。

雅道さん 僕は引越してきてから6
〜7年、子どもが小学校入るまで全部
避けてきたんよね。でもPTAはどう
してもせないかん。いざ入ってみると、
今はソフトボールの会長をしてるくら
い、楽しんで参加できてるね。

千晶さん 近所とのつながりには子ど
もの存在がすごく大きかったね。

啓太さん スポーツ少年団や消防団、
桜遊会（※、運動会にレクバレー大会
とか、中川には顔を合わせられて、力
を発揮できる機会、地域で盛り上げら
れる場が多いよね。

余吾さん 来た人らは自分の特技をア
ピールできる場まで、ちょっと引ッ込
んどるとこはあるかも。「これならで
きる」ってことを地域の人に知っても
らえたら、一気になじめるんやろね。

※中川地区の地域活動のボランティア団体。
夏祭りや文化祭で活躍。地域のイベントに
は無くてはならない存在。



受け入れてくれたから、自分たちのまちになった

明日香さん 家を買って越してきて

「ずっとおってくれるんじゃ、ありがとう」と言われたのがうれしかった。地域に「おじゃまします」って気分で、なじめるか不安もあったから。つながりはお店にも生きてて、越智さんの蜂蜜をずっと使わせてもらってます。今挑戦中のジャム作りにも。無くてはならない存在です。

越智さん 櫻井さんには、もっともっと成功していつてほしいよね。

「自分事」になった、まちのこと

——住んでみて、意識の変化は。

黒川さん 会社勤めから専業農家に変わって、子どもや地域のことに関われるようになった。今では「生まれ育ちがここやるか」ってくらいに、この人間になってしまったね。

啓太さん 「よそ者感」がなくなってきたかな。消防団や評議員に参加するうちに「もう、よそ者じゃないんだな」って。地域のことが「自分事」になったように感じます。

濱井さん 昔は中川も封建的やった。それが「おいで」って雰囲気になったんは、時代の変化かなあ。「若い代に預けよう」って、地域が変わってきたたんやろな。今は特に移ってきた人らが地域を盛り上げてくれ、受け入れる土壌ができとるから、これから来る人にとっていい場所よね。

啓太さん スタードームとかできたんも、その雰囲気のおかげよね。

雅道さん 竹細工職人として竹を使った催しはやりたいって思ってた。そこに話が来て、みんなで作って、喜んでもらえたから良かった。中川の風物詩になればな。みんなで夢描いて、どんな次につながってるね。

余吾さん 誰かが何か言うてきたら、俺が前に出ればええけん。みんなにはいろいろしていつてもらいたいわ。

啓太さん 余吾さんらのおかげで、僕らが自由にやらせてもらえてる。いつもありがとうございます！

自分たちで、もっと住みやすく楽しいまちに

——これから新しい人を迎えるのに問題などありますか。

近藤さん まず家がないんよね。ぱっと見ありそう、地域の人らも「あるある」っていうけど、いざ探してみるとない。特に賃貸。

山田さん 家とか、今後の事を一気に決断せないかんような、いきなり



昨年8月のふれあい親子活動で披露されたスタードーム。雅道さんを中心に、地域のみんなで作成。

大きい買い物は難しいよね。

濱井さん 空き家でも、お墓参りのために置いてる人が多いんよ。賃貸でしばらく地域を見て、それから定住ってできたら一番ええんやけどね。

啓太さん インターネット回線、光が欲しい。都会では当たり前だったから、まさか無いとは。IT関係の人とか引っ越してこれんよね。

——これからやりたいことは。

雅道さん 他の地域の子どもにも、中川ってなんかおもしろそうやね、って思われるようになりたい。僕らみたいに職人やカフェしてる人とか見てもらって、こういう世界もあるんやなって知って、触れられる場所を作っていききたいね。

啓太さん 子どもらが、住みたい、帰ってきたいと思える場所を作るのが自分たちの役割。そのためには、自分たちが面白くしていかないと。「楽しい」を地域で共有していけたらええですよね。



幸粒～korifu～（専業農家）

のぶゆき 藤岡伸行さん（右）・ゆかりさん（国安）

伸行さんは13年前に東京都から西条市へUターン。ゆかりさん（千葉県出身）は翌年移住。現在は米や里芋などを栽培。ゆかりさんは東予地域の農業女子グループ「たべとうみん」としても活動中。

加工などを行っています。この集まりから受けた刺激が、野菜作りや専業農家として取り組むきっかけになりました。

これからは、若い人たちを巻き込んで、地域を盛り上げていきたいです。国安地区でも地域づくりの会が動き始めていて、意見交換も活発に。近年、本気で地域のことを考える人が増えていて、何か面白く変わっていきそうだなって予感がありますね。地域で農地を守るような仕組みを作っていきたい。今以上に協力体制を強化して、もっと地域への付き合いを濃厚にしていきたいですね。



住友重機械イオンテクノロジー(株) 人事総務グループ

やすふみ 廣瀬恭文さん（神拝）

高知県出身。2018年、転職を機に大阪府から愛媛県へ。今治市で1年間過ごし、昨年西条市へ移住。会社では人事採用などに携わる。

西条に来て一番に感じるのは、行政との距離の近さ。「やりたいな」ってなったとき、行動に移しやすいって、支援を受けられる環境があると感じています。何か仕掛けようとする人たちにとって機会をたくさんもらえるまち。引っ込み思案にならずに、一歩踏み出せば、自分がやりたいことを実現しながら楽しく過ごせる場所ですよね。

一方、踏み出せない人にとって

は閉鎖的に感じることも。転職や就職で移ってくる人は溶けこめない人も多いから、移住者とのコミュニケーションの場がもっとあればなど。現在は、市

「やりたい」を応援してくれる気風

内で移住者の人が企画したイベントとかがあれば「行つてこい！」って新入社員たち全員を送り出しています。地域の人と共々できるものがあれば、もっと入り込みやすくなりますよね。都市部から優秀な人を採用で引っ張ってくるのにも、まちの過ごしやすさや楽しさといった生活環境は大切な要素になります。西条は、まちを楽しくしたい人が自然と集まってくるまち。人のつながりやすさは、お祭りの文化があるからなのかも。会社一つじゃなくて、まち全体が良くなりたという考えを共有できるのが西条です。

当市に移住してきた人たちに、住んでみて感じていることを聞きました。

この魅力は、おせっかいなくらい、地域のつながりが強いこと。「我、関せず」じゃなくて、何かがあったときに、関わってきってくれる。農業をしてても、スツと手伝いに来てくれるようなね。周りに助けられてるって感じる機会が多くて、すてきな地域だと思っています。「たべとうみん」の活動は、若手の女性農業者の研修会がきっかけで、地域での関わりからスタート。四国中央市、新居浜市、西条市で農業に奮闘する女性グループで、活動は今年で5年目。作物の販路拡大に向け、イベントやマルシェへの参加、食品の

いつでも助け合える地域のつながり

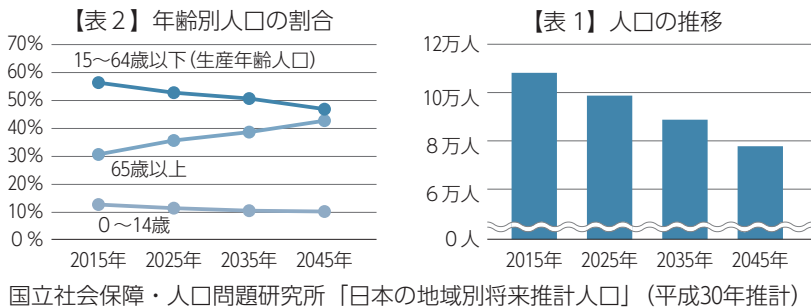
加工などを行っています。この集まりから受けた刺激が、野菜作りや専業農家として取り組むきっかけになりました。これからは、若い人たちを巻き込んで、地域を盛り上げていきたいです。国安地区でも地域づくりの会が動き始めていて、意見交換も活発に。近年、本気で地域のことを考える人が増えていて、何か面白く変わっていきそうだなって予感がありますね。地域で農地を守るような仕組みを作っていきたい。今以上に協力体制を強化して、もっと地域への付き合いを濃厚にしていきたいですね。

住みたい、帰ってきたい西条へ

地方で進む少子高齢化。若者の定住をいかに促進させるかという課題は、全国の自治体に共通する課題です。当市でも移住希望者を積極的に呼び込もうと、取り組みが進んでいます。

25年間で約3万人が減少

まちから若者がいなくなる



当市の今年1月末日現在の人口は10万8,906人。2045年には約7万8,000人と3万人以上の減少が推計されています(表1)。そのうち、生産年齢人口と呼ばれる15～64歳の割合は2019年の55.8%から46.9%に下がります(表2)。地域の経済を支えるのは、主に生産年齢人口。しかし、現在当市では、多くの若者が進学の際に市外へ出ていったまま約半数は帰ってきません。このままいくと、地域を支える人たちがいなくなってしまう、医療や子育て、教育、福祉、道路の整備

など、皆さんの生活を支える行政サービスを維持できなくなってしまう。

持続可能なまちづくりのため市が行う移住推進

中学生以下の医療費無料化など子育て世代への支援、新規就農補助など就労世代への支援。移住に関しては、専用サイトの開設、説明会の開催や体験ツアーの実施、利用希望者と空き家の運営などを行っています。

※空き家の活用を検討している方は移住推進課(TEL0897-15211476)へお電話ください。

西条に新たな産業を

よそ者目線による新たな風

総務省が平成21年度から導入した制度「地域おこし協力隊」。主に都市部から隊員が地方の自治体へ移住し、任期は最長3年。地域ブランド開発などの地域おこし支援、農林水産業への従事、住民の生活支援などの地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を目指します。

西条独自の取り組み

当市では、それをさらに「起業」に特化して隊員を募集。移住者は報酬と活動経費(200万円と80万円/年、最長3年間)を受けながらプロジェクトに取り組み、任期内の起業実現と定住を目指します。



昨年1月開設の「紺屋町dein」は起業家支援の拠点。

現在、13人の移住起業家が各自の能力や経験を生かし、地域と密接に協力しながら、地域の活性化につながる事業づくりに挑戦中。「よそ者の視点」による新たな発想で、より良い地域にするべく奮闘しています。

海・山・川でのアウトドアをもっと身近に

初めて西条に来た時、まちら見える山のサイズに圧倒されました。「これだけ大きい山がこんなに間近に見えるなんて」。山以外にも、少し車で走れば海も川もあって、バランスが良い。登山、SUP(※)、カヤック、キャンプやたき火などが幅広くアウトドアに挑戦できるのが魅力です。自然がこんな近くに集まっているって国内でもすごい珍しい。市内の人には当たり前すぎて、そのすばらしさに

気付いてないから、ビジネスチャンスがあるとも感じました。カヤックやトレッキングを行うと、地元の人や「西条にこんな場所があったなんて」って驚くんです。今まで自然に関わる機会がなかった人たちに「市内でこんな場所があるよ、こんな体験ができるよ」と広めていくことで、アウトドアのまちとして基盤を作っていきたいですね。

※サーフボードの上に立ち、水面を進む水上アクティビティ。



西条アウトドアサービス

きみひこ
上田公彦さん

熊本県出身。昨年3月、大阪府から移住・着任。以前は登山やカヤックのガイドなどとして活動。当市では、活用されていなかった自然資源を利用したアウトドアを推進する。

「食」をテーマに地方に行きたいと思うていました。西条はおいしい食べ物何よりの魅力。チャレンジ精神が強い地元の人たちの人柄にも引かれましたね。「この人となら面白いことができそうだな」と直感があつたんです。

私の仕事はこの土地のいいものを外に発信していくこと。西条にはすばらしい食がたくさんあるのに、地元の人や「え、そうなの」って反応がほとんど

水、野菜、果物、全てのおいしさにいつも感動

なんです。だから、まずは市内の人にその魅力に気付いてもらいたい。そこから5年10年かけて、全国に発信する仕組みを作っていきたいですね。

野菜などは、農家さんたちの努力はもちろん、「新鮮」というだけで味が全然違うのが衝撃でした。農家さんとお店を直接つないだり、旬のうまみを閉じ込めた加工品を作ったり、ここ以外でも西条の食を楽しんでもらえるようにしてきました。



フードディレクター

あいり
長尾愛里さん(左)

岡山県出身。2018年9月に東京都から移住・着任。地方自治体の産品の販路開拓やブランド開発を行ってきた経験を生かし、食に関する商品開発から販売までの支援を行う。

西条市の地域おこし協力隊 **もっと知りたい方は**

新たなチャレンジを知ろう！ 活動報告会

この1年間、そして今後の活動を、各起業家がお伝えます。

日時 3月26日(木)・27日(金) 18時30時～

場所 26日：中央公民館 27日：総合福祉センター

申込方法 予約フォームから申し込み。

予約フォームはこちら▶



西条では起業家10人と、コーディネーター(起業支援者)3人が活動中！

▶起業家について



▶コーディネーターについて



普段の活動やイベント情報は、Facebookでお知らせしています▶

